

日産科学振興財団

## 総合／環境教育助成 成果報告書

回次：第 回 助成期間：平成19年4月1日 ～ 平成19年9月30日  
テーマ：わたしたちのふるさとの川  
氏名：永田 幸子 所属：みやこ町立犀川小学校

### 1. 課題の主旨

ねらい ふるさとに流れる今川について、自分の興味関心に基づき課題を調べたり、学んだことや考えたことを発信したりする活動を通して、「近くの単なる川」ではなく「わたしたちの川」という意識を持ち、環境について考えることができるようになる。

### 2. 準備

#### ○川探検の道具

- ・パックテスト ・ペットボトル
- ・網 ・トレー ・ピンセット ・虫めがね ・水生生物指標表

○川のなりたちや、水生生物や、川のいろいろな環境等の掲示物

○壁新聞のモデル作品、壁新聞用の大判紙

### 3. 指導方法

1. 川で遊んだ経験や調べたいことを話し合い、課題をもたせる。
2. 川の水生生物の採取や、パックテストなどを行い、環境に目を向けさせる。
3. 壁新聞に調べたことや考えたことをまとめ、発信する。

### 4. 実践内容

#### ●参加者

みやこ町立犀川小学校 4年1組40名（男子20名，女子20名）  
行橋土木事務所職員

- （1）川で遊んだ経験を出し合い、川で調べたいことを話し合う。  
①インターネットで川について調べる。

川での「調べ活動」の注意点を確認する。

② 実際に川で調べる。

- ・水生生物を捕まえ、喜多良川の環境のきれいさを調べる。



生物指標表で調べると、きれいなところにしか生息しない水生生物がたくさんいた。喜多良川には豊かな自然が残っているということが分かった。

- ・川に捨てられている、ゴミの調査をする。



空き缶やビニール袋などが捨てられていると予想し、ゴミ袋をもって行ったが、ゴミは一つもなかった。地域の方が、マナーを守って川を大切にしているということを感じた。地域の方によると、喜多良川の水で田んぼを作っているの、川は、生活を支える大切なものだそうだ。

- ・上流・中流・下流、ジュースが混じった水のパックテストをする。



上流に比べ下流は少し水が汚れていた。人々の生活排水で汚さないように、暮らし方を考えないといけない。また、一滴、洗剤をたらしたすと、たちまちパックテストで水が赤に反応した。たった一滴でも、川がれることが分かった。

③ 川の成り立ちや、喜多良川の水生生物をまとめる。



行橋市土木事務所の方が、上流や下流の違い、川の成り立ちや、喜多良の水生

生物について説明して下さいました。

④ 壁新聞に調べたことや、考えたことをまとめる。



←子どもたちが作成した壁新聞

## 5. 成果・効果

- 喜多良川で稀少な水生生物を採集し、水生生物環境指標表を用いて喜多良川の水質を調べることにより、水質はとてもきれいで、豊かな自然が残っていることに気づいた。それにより、今までは喜多良川を単なる川として見ていたが、守るべき「ふるさとの川」としての思いをもつことができた。
- 上流・中流・下流の水や、ジュース水、醤油をたらした水などの、パックテストをすることにより、川の水をきれいに保つためにどうすればよいか等、自分たちの暮らし方をふり返ることができた。

## 6. 所感

故郷の川をいろいろな角度から調査することによって、川に対する愛着や川の環境をも守って行こうとする思いが募っていったようだ。子どもたちは自分の目、耳などの五感をつかって学習することができた。

## 7. 今後の課題や発展性について

課題・・・水生生物や川の環境に関する専門的な知識を持つ指導者の確保  
低・中・高学年の系統性を明らかにする必要がある。

## 8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

仕上がった壁新聞を、「国土交通省 九州地方整備局 河川部河川管理課 壁新聞コンテスト」に応募。